

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2020年												2021年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月 ~6日	6月 ~13日	6月 ~20日	6月 ~27日	7月 ~4日	7月 ~11日	7月 ~18日	7月 ~25日	8月 ~1日	8月 ~8日	8月 ~15日
カンピロバクター	42	46	55	54	92	177	241	189	97	132	148	125	114	65	137	114	169	32	39	20	24	37	39	30	16	34	12 (18)	10
病原性大腸菌	22	34	39	30	24	63	60	76	52	42	41	52	39	25	52	61	55	12	23	17	12	24	13	19	7	16	8 (9)	2
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	4	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0
サルモネラ	4	1	2	4	10	7	14	29	16	10	10	3	6	5	3	1	5	2	1	1	4	4	3	2	1	2	10 (11)	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	20	11	3	9	15	15	20	13	17	18	12	14	16	33	19	39	6	9	5	5	8	4	3	2	0	3 (4)	1
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	11	17	8	14	14	11	17	9	10	11	9	10	10	15	25	31	6	4	1	2	5	6	3	0	5	5	2
腸炎ピリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	0	0	0	2	1	3	4	2	1	1	0	0	0	0	1	0	0	
ロタウイルス	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	10	14	6	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	5	6	11	13	2	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和3年第32週(8月9日~8月15日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	3	結核	3		1			1		1
三類	3	腸管出血性大腸菌感染症	3		1	1	1			
四類	2	重症熱性血小板減少症候群	1			1				
		日本紅斑熱	1							1
五類	6	後天性免疫不全症候群	1					1		
		侵袭性肺炎球菌感染症	1					1		
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1					1		
		梅毒	3					3		
新型インフルエンザ 等感染症	1008	新型コロナウイルス感染症	1008	96	48	78	18	500	67	201

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

新型コロナウイルス感染症

第32週に500件の報告があり、前週の約1.6倍と増加が続いています。県内の感染状況から、8月20日から9月12日の期間で、広島県に「まん延防止等重点措置」が適用され、広島市は対象区域に指定されました。

全国の新規感染者数は急速に増加し、過去最大の水準が続いています。また、全国的に、多様なクラスターの発生が多数報告されており、これまで見られなかった百貨店や学習塾などでも発生しています。人と人との距離をできるだけ取る、換気をこまめに行うなど感染防止対策を徹底しましょう。

新型コロナワクチンとデルタ株について

新型コロナワクチンの効果

発症を予防する高い効果があります。
 また、感染予防、重症化予防についても、効果を示唆する結果が海外で報告されています。

デルタ株流行下におけるワクチンの有効性

重症化予防効果は保たれているものの、感染、発症予防効果は弱まる可能性があります。

【イスラエルの報告】

重症化予防効果・・・93%と保たれている
 感染、発症予防効果・・・90%以上から64%に低下



ワクチン接種後も、引き続き、感染防止対策を続けることが重要です。

【参考】新型コロナワクチンについて(2021年8月5日現在)(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/2484-idsc/10569-covid19-53.html>

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	急増減	前週と比較しておおむね	
													1:2以上の増減	1:1.5~2の増減
フィリ	インフルエンザ	-	-	0.16		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.18		急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
小児科	咽頭結膜熱	1	0.04	0.42		眼科	RSウイルス感染症	90	3.91	1.18		増減	↔	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.13	1.12			急性出血性結膜炎	-	-	0.05		微増減	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
	感染性胃腸炎	32	1.39	3.23		流行性角結膜炎	-	-	0.69		横ばい	↔	ほとんど増減なし	
	水痘	-	-	0.31		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-				
	手足口病	1	0.04	1.98			無菌性髄膜炎	-	-	0.03				
	伝染性紅斑	-	-	0.14			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.14				
	突発性発しん	6	0.26	0.46			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-				
	ヘルパンギーナ	-	-	0.75		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-					

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

今週(第32週)は、お盆の休診の影響で、報告数が少なくなっている可能性があり、前週(第31週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	55	80歳代
5	後天性免疫不全症候群	1	3	30歳代・感染者
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	6	50歳代
5	梅毒	3	39	10歳代、40歳代、50歳代
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	14	70歳代

■新たに判明した病原体検出状況

(検査：広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の呼吸器疾患	発熱(39.0℃) 気管支炎 鼻炎	2	2021/07/03	鼻汁(拭い液)	ハラインフルエンザウイルス3型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載